

問1 飛鳥時代、聖徳太子の命を受けて中国（隋）へ渡り、当時の進んだ制度や文化を吸収しようとした人物は誰か。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 小野妹子 2. 鑑真 3. 阿倍仲麻呂 4. 最澄

問2 7世紀後半、倭国（日本）は友好関係にあった百済の再興を支援するため、朝鮮半島に大規模な軍を派遣しました。しかし、663年に現在の韓国付近の河口で唐・新羅の連合軍と激突し、大敗を喫しました。この出来事を何といいますか。（2024年 高知公立入試 類似）

1. 白村江の戦い 2. 壬申の乱 3. 文永の役 4. 白河上皇の院政

問3 663年の白村江の戦いにおいて、日本が百済の復興を支援したものの唐・新羅の連合軍に敗北した出来事は、その後の日本の国家づくりに大きな影響を与えました。この敗戦を受けた当時の日本の対応として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 福島県公立入試 類似）

1. 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。
2. 新羅と対抗するために、それまで対立していた高句麗と軍事同盟を結んで朝鮮半島へ再進出した。
3. 唐との国交を完全に断絶し、遣唐使の派遣を停止することで海外の争いから距離を置いた。
4. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子を退位させて、新羅から受け入れた仏教を中心とした政治に切り替えた。

問4 飛鳥時代から現代までの日本の歴史を時系列で並べた際、聖徳太子が「十七条の憲法」を制定した時期よりも「後」の出来事であり、かつ奈良時代に行われた事柄として正しいものはどれですか。（2024年 静岡公立入試 類似）

1. 自分で新しく切り開いた土地を永久に自分のものにするを認める「墾田永年私財法」の施行
2. 日本で最初の女性天皇として、推古天皇が即位し政治の基盤を整えたこと
3. 安土桃山時代を象徴する、豪華な装飾が施された城郭が各地に築かれたこと
4. バブル経済が崩壊し、長期にわたる景気の後退が始まったこと

問5 7世紀初めの日本において、聖徳太子らが「冠位十二階」を定めた背景には、天皇中心の政治を強化しようとする意図がありました。この制度の特徴について述べた文として、正しいものを一つ選びなさい。（2024年 秋田県公立入試 類似）

1. 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。
2. 豪族の身分を固定化し、その子孫が代々高い地位を継承することを保障した。
3. 遣唐使として派遣された留学生の意見を取り入れ、全ての土地と人民を天皇のものとした。
4. 役人が職務を行ううえで心の構えを説いたもので、儒教や仏教の考え方が取り入れられた。

問6 飛鳥時代、聖徳太子が仏教を政治に取り入れた影響を受け、各地の有力な一族が競って寺院を建立しました。このような寺院建立の主な目的や当時の状況について説明したものと、最も適切なものはどれですか。（2021年 島根公立入試 類似）

1. 豪族が自らの経済力や政治的な権威を周囲に示すため、一族の氏寺として建立した。
2. 聖武天皇が仏教の力によって国家の災いを取り除こうと考え、全国に一律の規格で建立した。
3. 地方を治める国司が、天皇の代わりたびに新しい行政拠点として建立した。
4. 武士が戦乱の世を逃れ、極楽往生を願って山奥に阿弥陀堂を建立した。

問7 天武天皇が行った国家建設の取り組みにおいて、律令に基づいた政治を支えるために、全ての土地と人民を国家のものとする考え方を何といいますか。（2022年 福岡県公立入試 類似）

1. 公地公民 2. 墾田永年私財法 3. 地租改正 4. 版籍奉還

問8 7世紀の日本は、朝鮮半島から移住した渡来人を通じて仏教や最新の技術を受け入れるとともに、大陸の制度を学ぶなど国家の仕組みを整えていました。こうした時代のなか、天智天皇の死後にその跡継ぎをめぐる大海人皇子と大友皇子が争った、古代日本で最大規模とされる内乱を答えなさい。（2017年 高知公立入試 類似）

1. 壬申の乱 2. 承久の乱 3. 平将門の乱 4. 保元の乱

問9 日本の歴史において、古代の律令国家の形成期と、近代の明治維新期の両方で共通して見られた「中央集権体制」の構築に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。（2024年 福井公立入試 類似）

1. 地方の有力者が所有する私有地を認め、その土地の管理を各地域に任せることで国家の安定を図った。
2. それまで地方の有力者が個別に支配していた土地や人民を、国家や天皇が直接支配することを目指した。
3. 権限を地方の役所に分散させることで、地域の事情に合わせた柔軟な政治運営を行おうとした。
4. 武士や貴族が土地を世襲的に支配する権利を強化し、身分制度に基づく統治を徹底した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 小野妹子	聖徳太子は、中国の進んだ制度や仏教文化を直接学ぶことで、天皇を中心とした国づくりを進めることを目指しました。そのために派遣されたのが遣隋使であり、小野妹子はその代表的な人物です。これにより、日本は中国との対等な外交関係を模索しつつ、律令国家の礎となる知識を得ることができました。
問2	答え 1 白村江の戦い	663年に朝鮮半島で起こった白村江の戦いでは、倭国（日本）が百済の復興を支援しましたが、唐と新羅の連合軍に敗北しました。この結果、倭国は朝鮮半島での影響力を失い、国内の防衛体制や中央集権化を急ぐこととなりました。選択肢にある壬申の乱は天智天皇の死後に起こった後継者争い、白河上皇の院政は平安時代末期の政治形態であり、時期や内容が異なります。
問3	答え 1 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。	白村江の戦いでの敗北は、日本列島への直接侵攻の危機を招きました。中大兄皇子は防衛の拠点として九州に大宰府を整備し、その守りとして水城や大野城などの城を築きました。また、都を内陸の近江大津宮（滋賀県）へ移すとともに、全国的な戸籍の作成（庚午年籍）を進めるなど、中央集権的な国家体制の構築を急ぎきっかけとなりました。
問4	答え 1 自分で新しく切り開いた土地を永久に自分のものにするを認める「墾田永年私財法」の施行	十七条の憲法は7世紀初頭の飛鳥時代に制定されました。これに対し、墾田永年私財法は8世紀（743年）の奈良時代に制定された法令であり、時代順として後に位置します。推古天皇の即位は憲法制定の前提となる出来事であり、城郭の建築やバブル崩壊はそれよりもさらに数百年から千年以上後の出来事です。当時の社会状況の変化を時代区分ごとに理解することが重要です。
問5	答え 1 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。	冠位十二階は、功績があった本人に位（冠）を与える制度であり、その地位は子孫に引き継がれる「世襲」ではありませんでした。家柄に関係なく、実力のある人物を役人として引き立てるこの仕組みは、当時の中国（隋）の制度も参考にされています。また、役人の心構えを説いたものは、同時期に制定された「十七条の憲法」です。
問6	答え 1 豪族が自らの経済力や政治的な権威を周囲に示すため、一族の氏寺として建立した。	飛鳥時代には、法隆寺や飛鳥寺に代表されるように、聖徳太子や蘇我氏などの有力な豪族が最新の文化である仏教を取り入れ、その勢力を誇示するために寺院を建立しました。これらは「豪族寺院（氏寺）」と呼ばれ、特定の氏族の繁栄を祈る性質が強いものでした。一方、選択肢にある「国家を守るために全国に建立された寺院」は、奈良時代の聖武天皇による国分寺・国分尼寺を指しており、建立の主体や目的が異なります。
問7	答え 1 公地公民	天武天皇から持統天皇の時代にかけて整備された律令国家の根本原則です。それまで豪族が私有していた土地や人民を国家の管理下に置き、戸籍に基づいて人々に田を与える「班田収授法」などを行うための基盤となりました。
問8	答え 1 壬申の乱	天智天皇の弟である大海人皇子と、天皇の子である大友皇子が対立して672年に起こった戦いです。この内乱に勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇中心の強力な中央集権体制を築く基盤を作りました。
問9	答え 2 それまで地方の有力者が個別に支配していた土地や人民を、国家や天皇が直接支配することを目指した。	律令国家における「公地公民」の原則と、明治新政府による「版籍奉還」や「廃藩置県」は、どちらも土地と人民の支配権を中央へ集中させることを目的とした政策です。古代では豪族、近代では大名という、それまでの地方支配者の権利を否定し、中央政府が直接的に国民を統治し、税を徴収する仕組み（中央集権体制）を整えようとした点が共通しています。